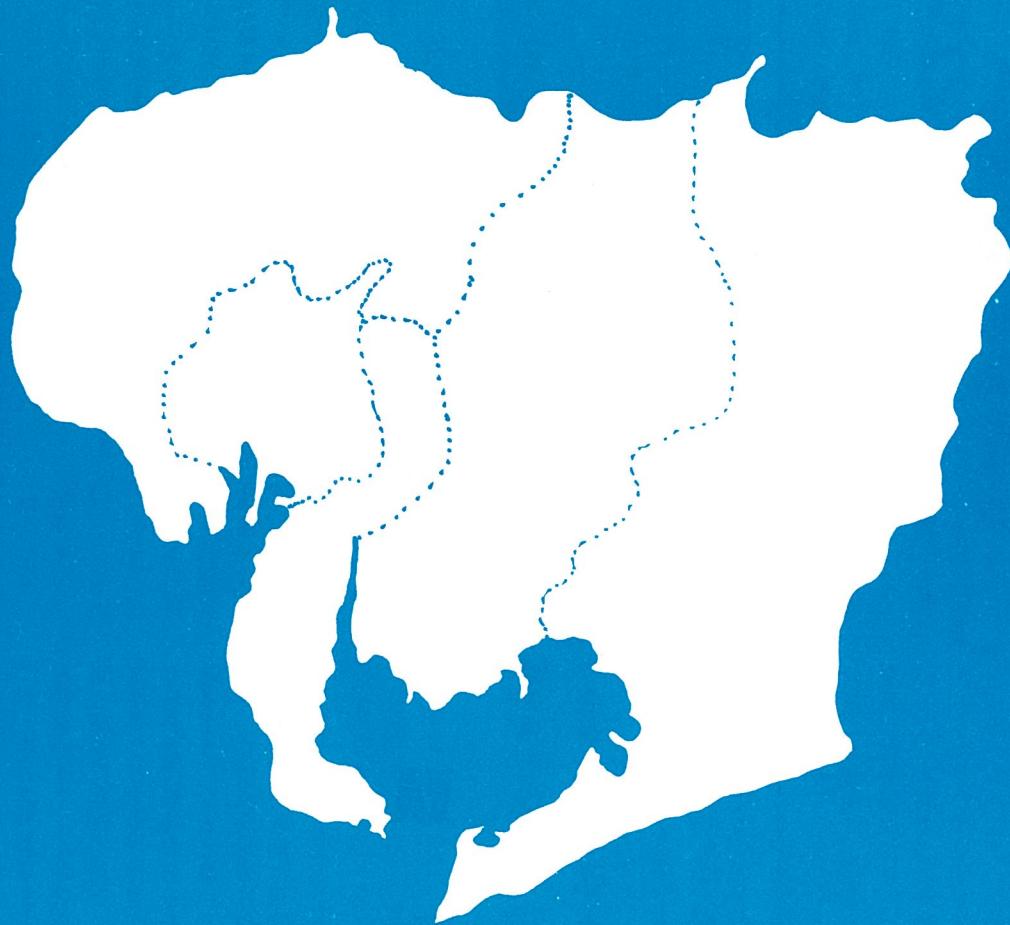


観の眼



目

卷頭言	2
剣道の理合について	3
剣道の審査について	10
安田政次郎範士回顧録	11
第5回世界剣道大会視察の旅	13
第5回世界剣道大会に出場して	19
インターハイ女子個人戦に入賞して	19
同朋高インターハイ3年連続出場 及び東海総体優勝	20
剣に想う	21
太平洋上で剣道!!	23

次

武者修業についての感想	23
仙台洋上合宿に参加して	24
海上合宿訓練に参加して	25
武者修業に参加して	25
海洋合宿で学んだこと	26
剣道から学んだもの	27
剣道を通して体験したこと	28
地区連盟紹介	29
剣道雑感	31
教職員剣道大会報告	32
編集後記	32

第6号



愛知県剣道連盟

日本は、今日世界中から注目される程の経済大国になりました。

翻つて思えば、それは富国強兵の合言葉のもと明治以来、近代国家形成を目指し、工業の近代化を急いだこの成果であつたといいます。とにかく貧しい日本を早く豊かな国にするという思想のもとに、全国民が足並みを揃えて進んできたあげく、敗戦という予想もしない結果に終わつたわけです。

あるという考え方から、物質的な力が最も大きいとされています。そのため、この「物質的富」が唯一の目的に、ただ一途に稼働する力が生まれます。そのため、この「物質的富」は、その原動力として、社会の発展や経済の成長をもたらす重要な要素となります。

A black and white portrait of an elderly man with glasses, wearing a suit and tie. He is looking slightly to the right of the camera.

剣道の理合について

剣道範士九段
松本敏夫



剣道を指導され、そして剣道普及発展のために、ご尽力を願つておる、個人としても感謝しておる。

剣道の修業で特に私のお願ひしたことは「自分はできておるんだ」、いふことは「教えるんだ」ということで、そして、「生徒とともに学び、勉強しなくて、導くんだ」というよくな気持をもつていただきたい、大変失礼なことを申し上げますが、剣道は死ぬまでが修業でございまして、「自分が既にできた」と思つたらそれは終りです。そういう謙虚な気持で工夫されるとともに、自分自身が修業して、

内でも特に、理合ということについてお話しし、又理合のうちでも竹刀の持ち方、握り方、或いは打ち方、そういうところに多少時間をかけてお話ししたいと考えております。しかし、これが理合である。真髓であるということとは断言できませんが、それに近いものになつております。けれどもこれが真髓だということが、ひよつとしたら死ぬまで分からんかも分かりません。しかしそれに近いということは信じております。又剣道では、考え方、表現の仕方によって、各先生方が同じことをいわれても、違うように感じられる。昔でも各派各流があり、それぞれ剣道といふものの大きな広い分野の内のある部分が非常に傑出しているようなど

であるとは申しませんが、私自身は、色々先生方から教わったもの、自分が工夫したもので、現在では、これがいいんじゃないかということをお話しするのであって、皆さんそうやりなさいというおこがましいことは、私は申しませんが、ご参考になつて、松本のいうことがこれはいいなどということであれば、それをおとりになつて、お稽古されたら私はいいと存じます。

よく剣道理念というものは短かくして、若い人に説明がしにくいということを聞きます。この間も、高段者研究会で、その話しがでましたが、皆さんがお話しになるには、剣道理念で話しが難しければ、剣道修練の心構えについて話されてもい

中部地区剣道講習会

剣道講話

はないかと思います。
現在各地で技術革新がとり上げられ、この東海地方におきましても、先般、「東海テクノベルト構想」というのが公にされました。新しい技術を、この地方の従来の技術にうまく応用するならば地方発展の引き金にもなるうとというものです。それには優れた特殊機関や高度な研究機関を誘致あるいは設置してそれを大いに活用して、こうといふものです。

ますから、この集積された技術をさらに新しい時代にマッチさせたものにしてゆくことが地方の時代を生み出す第一歩ではないかと考えます。もどもと私は、今日のような物質主義、科学方能主義だけを追求していくことは、人間本当の幸福をつかめんだろうかという疑問を持つていまして。物があればよい、金さえあればよいという物質主義では、それが必ずしも最後には失望しかねません。

正常の心を失わない境地を体得することができるのであるうございます。殺人剣はそのを目指すところではなく、活人剣こそが練成修業のゴールでないでしょうか。

世間的な外観的な形骸に過ぎないことに執着することなく、心を練磨する修業であつて欲しいと願うものであります。

各位の一層のご精進を祈念いたしま

A black and white portrait photograph of Dr. K. C. Chang, an elderly man with glasses, wearing a suit and tie. The photo is mounted on a page with a decorative scalloped edge.

卷頭言

愛知県剣道連盟

ていくという状態に陥つてきたのです。国全体の在り方としては、これでは具合が悪いというので近頃「地方の時代」といわれはじめたと思います。しかし、さて「地方の時代」とは一体何をするのかということになるとその結論はまだ出ていません。私見を許されるならば、日本の経済や行政における行き詰まり状態を解決したいというのが、ある意味での「地方の時代」が呼ばれる所以で

これからは量から質の時代です。何がなんでも大量重視という時代から脱皮して、質を問うという考え方へ変える必要があります。要するに人手をかけて、人の心をこめて、手間と魂を打ちこんだモノを作り上げてゆくことです。作者の魂の入った本物が眞に価値のあるものと評価されるようになります。

幸いに、東海地方には伝統の技術というものが各地に根強く残っています。

残らなくなってしまうのではないで
しょうか。

そのためにもこれから時代とい
うものは、自分自身の欲望を自制し
不足の中にも満足感を発見するとい
う東洋古来の思想をもう一度見直す
ことが必要だと思います。その思想
の原点は正に量ではなく質であり、物
でなく心であると思うのです。

剣道においても同じことがいえる
のではないかでしょうか。試合や段位
制度(剣道の進歩、發展)に立つて

講話の中で、実際に竹刀を持つて詳しく説明していただきました。しかし、残念ながら、構えられた先生のお姿、竹刀を握られたとき、打たれたときの手の内、筋肉の働きなど、ここに登載できません。ご了承下さい。

先生には終始熱心に一時間にわたるご指導をいただきありがとうございました。講習生一同紙面をお借りして御礼申し上げます。

いと思います。

なんです。理合というのは、ようするに合理という言葉をつかわないで、合理的、理に合う、こういうことです。この剣の理法ということに二つあるんですよ、相手と自分との兼ね合いの理合ですね。僕ができる、或いは間合もここだ、僕が「ホツ」としたところ「バツ」と打つ、相手との兼ね合い、又それだけでなしに自分自身の呼吸もあるし、竹刀の持ち方もある。踏み込んでいくときの重心の置き場所、筋肉のつかい方、總て理に合っていないと、いらぬ所に力が入っておつたら、「サー」とそこに打てませんね。自分の筋肉のつかい方、呼吸の仕方、姿勢、色々自分の体事態がそれに合うようにもつていのが理合というものでありますね。それから相手との理合、この二つあるわけです。理合のうちでも分ければ枝と心、それが事理一致、技と心が一救せねばいかんですね。大きく分けたら理法のうちには、身法(身体の法)、自分の理合に合ったもの。自分自身の構え。(刀法(刀の操法とか、色々の技術的なものをいう理合。)心法(これは心、心の法がどうあるべきか、心の問題。)の三つに分けられます。事理一致、技と心、もう少し詳しく述べれば、氣剣体、氣は心法、体は身



と動かなければいかん。無理な力は入つていなければ休んでいる。だらつとしているところがあつてはいけない。だから仲々頭の先から指の先までが「スー」と一つに通じるということは大きな修業ですよ。簡単のようですが、これができれば大したものだと思います。自分では通つているように思いますがそうではない場合がある。結局丹田といふことをいいますね。「丹田に力を入れて」と、丹田といふものは、私は体重の重心であると思います。一番重心になつてゐるところ、簡単に言えば股関節、足の骨盤と足との関節、関節と腰の下部第四腰椎、この三つがあり、この三つの正三角形の中心になつたところ、これが丹田です。この丹田が簡単にいえば骨盤の中ほどになる、昔から言われてゐる臍から二寸（六糢強）下るとか、あるいは三寸だとか、私は大体二寸位だと思いますが、臍から一寸だと、前にあるんだと思つんですが、これは違うんですよ。臍より二寸といふのは高さを表してゐるんで、臍を基準にして、これの中心というのは、結局、耳の線から「ズー」ときて、真直ぐに立つたら足の踝、こうやれ脊髄からちよつと前の方、そこには

は、短い文章で、そして格調が高くて、意味の深いものを作ろう。それだけでは分り難いから指導理念といふところで、これを詳しく書いたらどうだろうか。」ということで、初めて指導し易いようにしようということは剣道理念を作るということが始まつた。指導理念は、剣道理念が短いものであるから、その説明を兼ねて指導し易いようにしようといふことで、剣道理念が大体できて、指導理念にうつった。その指導理念になつてくると、これが本章に「寄与せんとするものである」とある。そういうふうにさせると、指導理念だから、させるという言葉、今の時代にさせるとか、型に入れるとか、そういうことは良くないということで、又色々やつたら、剣道の指導理念でなくて目的というのが良いではないかなど色々変つたものです。仕舞いには、剣道の理念と剣道の目的としたが、目的というのはおかしいので理事会で修正され、指導してその型に入れるでなくて、稽古する人自体がそういう心構えでやっていくご本人がそれをよく弁えるのだから、これは剣道修練の心構えということになつた。最初から剣道理念の体節となんで、少しも変わりはありません。



だ、ただ竹刀、袋竹刀ではない、剣を持つて相対するのだ。そして物打ちで打ち、剣先、或いは鎬を使う、構えているところをぐつと突くのは、約束ごとであつても、それは死ぬんだから、だから剣だということを入れた。當時としては、剣ということを入れるには、「やろうじやないか」という大きな気持でやつたんですよ。これだけは十人委員があつたんです。が、十人とも全員賛成です。後は四年間もめたんです。十人の意見が揃うのはなく、初めは違つたものをよく話しをして、仕舞いには納得してもらつて、こういうものができたわけです。剣道なんですから、刀という氣持でおやりにならないと、約束した部位を打ち合ううというだけの、竹刀で打つというだけのものはないということを特に強調したいと思ひます。

れ（指）の第一関節より前のところ、ここ
ようするに指紋のあるところ、ここ
(指)が4、3、2、1。親指が1、
倍数の4、3、2、1でなくて、1
よりちょっと力の入ったのが2。それより
れよりちょっと力が入ったのが3、
ちょっと力の入ったのが4。そういう
う意味で、倍数でなくて、それより
ちょっと上だという順番という意味
です。これは何かというと、ゴルフ
でも野球でも皆小指に力が入ってい
なかつたら、物打ちに力が入らない。
小指が抜けていて、こうやつたら竹
刀のつば元には力が入るが、物打ち
には入らない。物打ちに力が入らな
かつたらいいかん。だから小指は、こ
れもぎゅうと握りしめたらいいかん。
今的第一関節から軽く握る。拳全体
で持つ。ここから先だけ力を入れる。
握り方、手の内は柔かく、ぎゅっと
中へやつてしまつたらいいかん。手の
内は柔かくする。或るファンシング
の有名な選手になつた人は、カナリ
ヤを「サツ」と摑めた。ぐつとやつ
たら死んでしまう。小さいから広げ
たら逃げてしまう。逃さず殺さずと
いうことあります。剣道では卵を
(卵は仲々こんなことすぐ割れる
ものではないけれど、直ぐ割れると
いうものの昔からの代名詞の言葉で

あつた）「ファツ」と今言つたように握りのしこがあります。ぐつと締めないけれども「ファツ」として、打ちとする。ここのこところをよく研究してもらわなければいけない。小指がいつも軽くしまつていなければいけない。又高野先生は竹刀であつたら小指の半分でやれとか。或る先生は柄頭一杯にやれという。又或る先生はここをちょっとやつた方がよい（柄頭を少し余す）といふ。今言つたように色々とそれぞれの長所も又短所もある。矢張り小指が柄頭一杯であつて、全部が延長している中継ぎの親方である。小指がこのままで、この順序でこうあれば、剣先が生きているわけですね。皆さん小手をはめずに教えているとときは丁度親指に力が入らずにこうなつてゐる。小手をはめたら、ここがごぼつと出でいるから、ぎゅっと親指に力が入る。それは何かといふと、持つときに親指の方を主にして持つてしまふ。子供のときから親指で力を入れて持つのは大体自然ではないかと思うですね。「ひよつ」と親指に力が入る。ここが基準になる。打ち方でもここに力が入る。よく学生で「ぱん」と打つて、こうやつたら届く。それ

しか打てない。小手でもこう構えた
ら、この下まで剣先がこう、小指が
一番大事です。打ち方の方になつて
きますが、打ち方も昔から言つてい
るよう一拍子の打ち、「いち」、こ
うやつている場合でも長くなります。
「いーち」これはある程度の打ち、
1、2ではない。一挙動でない。一
拍子、それにはここからこうやる。
振り冠るところに力が入る。ここ
で止まる。(上)又新しい力で打つ。
二挙動になる。そつでなくして、小
指がいつも入つておつてしまつかりし
てはいる。小指がしつかりしているか
ら上げても小指が抜けない。小指で
こう上げると自然にこう打てる。上げ
た反動で打つ、金槌で釘を打つとき
に、上げて「とん」、上げて「とん」
でなくて、「ぼん」上げた反動で打
つ。金槌で釘を打つときに、釘の頭
と金槌のあたるところ、そこへ気が
ゆく。「ぼんぼんぼん」竹刀でしたつ
て、今打つていこうかという、面の
部分、そこへ一つ気が、いく、仮りに
面にいこうとしたとき、手が主にな
つて剣先がどこへいっているかわか
らない。そんなので釘を打つたら伸
タボイントにいきません。中結び、
大体この辺のところに気が入つてい
なければいけない。そこで皆間違つ

です。物打ちが上がつて打つことです。刀で打つためには、これ（物打ち）が上に上がつてここで打つことです。これを上げるための、これは一つの時間です。すげんなです。矢張り物打ち、剣先がいくための一つのこれですね。そういうことも考えて子供の切返しのときに、これ（拳）がいつてから「こそ」と剣先がいくんでなく、これ（物打ち）が「ぱん」とこうやれるよううに教えたら、自然に親指に力を入れたらできない。教え方でも物打ちでこういくようにやりなさいといつたら、自然にこういう手でなかつたら、これからこう入つていかなかつたら、それは打てないから逆の指導法としては、一つの考え方としてはそれもいいと思います。私はできた人でも、これで打つんだから、ここに気がいってないかん、又余り気が入つていてもいけません。前にも言つたように、この視野の中に入つていかなかつたら（拳）で持つているから、いこうと思つたら「ぱん」と小手を打たれ。拳でこう上るから、上げるにも肘が上がらなければいかん。それから手首のしめ、余り力が入つたら

あるわけですね。その丹田を中心にして、下腹に「ズー」と入ったのが私は良いように思います。丹田を中心とした下腹に力が入る。そこに入れば自然に肩も落ちる。或る人は丹田が下にいかずに胃の方へ、臍より上がりへ。「オー」と気合を入れると腹がへこんで、肩が張る。一刀流で篠森先生も仰つておられた、眼と眉毛の間、これから耳のすじ、これが上丹田です。上丹田と下丹田が一本「スー」とそろつてこそ、首すじにもうなしにも力が入る。ここ（下丹田）はできていても、首が抜けていると、打つていつたら肩が上のる。これが「スー」と入っているから、これを軸にして、こう上（拳が前に出て上る）に上るんではない。拳が上る。構えるときは重心が下におりて、自分の重心が、よく言われるように、両足の真中或いはちょっと前に落ちる。しかし重心の位置にしても、この手が面を打つたとき「ズー」とこうすれば、重心が多少前にいくのではないかと考えている。それから構えたときに木刀や刀であれば柄が短いけれども、竹刀は長さが長い。それで柄も長い。柄が長いから右手が左手よりも前に出ますから、体を真直ぐにして構えたら、手が延びてこれだけ

余つてくる。余るというのはおかしいが、こうやればここ（ひじ）で折れてしまいっこ（ひじ）で気がとだえてしまう。これがよく言つようにな延さず、曲げず、弓形の……これが全部続いている。やろうとすれば骨盤は真直ぐ向いているから、足も踵も真直ぐ向いている。体もこう（真直ぐ向く）やつたらこうなる。これは不自然、これから左肩を多少引くよう、そうすると腰の位置と脊髄を貫く線が多少こう（左の方を向く）になります。だから左の方へもつていいのが、真直ぐより、これ（左親指の付根）が正中線になつてくる。これを同じようにこうやつたらやり難い。前に話した三つの関節が多少いけるんですよ。こうやりなさいと言つと腰までやつて、これですと腰が逃げてしまふんです。これをやらないために腰を前に出さないと、不自然になつてしまふ。骨盤はこのままであっても、この関節で多少は動く。これは座つておつても骨盤も前に向き、足もそのままでよ。ここへいこうと思うと、これまでせねばいかん。そつではない。ある程度できるんですよ。これを軽くこうやれば、柄の長いものは、木刀や刀を持ってば、この（肩）引きかたは少ない。よう

今日は理法のうちで刀法を重点に
考えてみたいと思います。刀の持ち
方ですが、今言つたように「ズワー」
とここですわって、これを少し引く
ようにして、これ（竹刀）を持つ、
拳だけでこう持つ人が多い。もう一
つ上にいくと、前腕だけで、もう一
つ上にいくと、これ（上牌）だけで、
もう一つ上にいくと腰から出て全部、
少くとも腕全体で持つ、私はこの竹
刀をこう、吉田先生から習つたので
も、こちら（左）側、この関節とこ
れの間の外と下、こちら側はこの辺
の下と中、ここでバランスをとると、
右と左は働きが違うんです。だから
宮本武蔵は二刀を使つて、皆同じよ
うにやらない。働きの同じように出
すのは野球のバンドです。バンドは
球を打たないように両方こう出す。
打つのはこれで（左拳）こう引いて、
剣先がこう、球をミートするときに
右が、剣先を「ズー」出すから「ズー」
といふ。だから右と左の働きが違う。
それでこう持つていいけれども、或る
程度肘を、ここで持つたからといって
「パツ」と真中で抜けてはいけな
い。よくそこに力を入れてはいけま
せん「先生抜くんですか」、「抜くの
は違う」、入れず、抜かずという、何





名

排除していく。そういうことによつて、剣道の特性である礼節（上を敬し、下を愛する。）を学ぶのです。約束したら守るとか、自分の誠でやる。特に相手方を尊敬すると、相手方のためになる。又子供が拭き掃除をやる。これは下だから拭き掃除をするのと違う。君達が先輩達のために奇麗にし、稽古してもらうために、人のために尽すことを勉強するんだ。というふうに教育してほしいと思う。自分だけでなしに、人のために尽すということは、拭き掃除をさせたり、後片付けをさせたりするときに指導していただきたい。そう

きましたが、もう十年も先になつて剣道理念が徹底され、こういう理念のような気持をもつて稽古される人が一人でも二人でも多くなるように努めていくことが、日本剣道を正しく伝承することだと思います。自分等は年寄りですが、将来立派なものを見残していくという我々には義務があるということを感じてもらつて、人が見ているんだから、できるだけ卑しいことをせずに、人に嫌な感じを与える、人間形成なのに稽古してから、あいつ嫌なやつだなと思われたら、これは人間形成の逆です。何本打たれても、ああ気持がよかつたというように、人に嫌な気持を与えるということは、マイナスもマイナス、大きなマイナスです。それが全



いうことによつて、立派な剣道、正しい剣道をやるということを教え、終局は、あの人は剣道も立派だけれども人間も立派だなあというふうになつてほしい。剣道は強いけれども、ちょっとおかしいな、ということになつたら、これは本当の剣道の意味でないと思う。人からも剣道をぬきにして尊敬され、愛される人間であり、剣道も立派であり、いつもこう

然ないよう、人間ですから「何を」と思うことはありますけれども、「ペツ」と反省して、そういうことのないうように努めて、立派な剣道を皆さんも一緒になり、後世に残そ�ではありますんか。

このことを申し上げて、丁度時間ががきましたので皆様の一層のご精進を祈念申し上げましてこれで終ります。

剣道は剣の理法の
間形成の道である

- 一、剣道を正しく真剣に学ぶ」とある。

剣道は剣の理法の
間形成の道である

- 一、剣道を正しく真剣に学ぶことである。
 - 二、心身を鍛磨して、旺盛なる気力を義うことである。
 - 三、剣道の特性を通して、礼節を尊び信義を重んずることである。
 - 四、誠を尽して常に自己の修養に努めることである。
 - 五、国家社会を愛して広く人類の平和繁栄に寄与することである。

かん。手の内を変えて、手の内をぎゅっとやると、一ぺん締めたあと、打てんから、一ぺん抜いてやると一拳動になる。手の内をそのままにしておいて、他の箇所を使って剣先を上げて打つ。このときは気がしまるから、自然に締めようと思わんでも「パツ」と自然にしまる。しかしこのとき、「うつ」とこうやることが一番動きがとれない。握り方に力が入ってしまうと、握りは「ふあつ」と握ったままでやる。「うあつ」、これでは負けだ。ここが大事なところだと思いますね。よくいくときに「うつ」とやるから又抜いてこうやる。一拍子で打つ。それはこのままで柔かく、小指がきいたままで、物打ちが早く上つて「うん」と打つ。力でない。「先生そんなことをしたら遅くなる」「そうでない」これがここと小指を縮めて「パツ」と打つので早い。早いだけでなく強い。言葉をかえれば「シャープ」である。早くしてするどい打ち、これは試合にも勝てる。正しい剣道をしたら、負けるのは違う。正しい剣道は試合に勝てなければいけない。正しいのが負けるのはおかしい。理合に合つてない。拳でこうやる。よく打たれるのは拳である。だから理に合つてない。や



つてみましようか。これで上げるのは拳だ。前腕であつたらこれだ。腕だけだつたらこうだ。もう一つこれからきたらこうだ。それだけ力が違う。そうして出ていくときは、これ

の界のところがついていなければいけない。これが前に出ているから、重心が多少前に出る。体が前にいつて打つ、手だけで打つのではない。しからば右足を軽くして、右足を大きく体とともに「ズー」と如何にしたら出るかということ、それから子供はよくここで、こう（右手を横から）持つて、引っぱり上げる。これは一番いけない。引つぱるということは、体がこう（そる）なる。体が前にいかねばいけない。これは振り上げるので、引っぱるんじゃない。刀法には刀筋ということもある。鎬を利用するといふこともある。踵のつかい方、これは根岸信五郎先生、中山博道先生はやかましく、左足の踵の利用を言つていられる。踵はむつかしい。踵が大事である。

たから、打とうとする。気が一ふうとそこへいこうとするときに、又向かつたときに打つ。或いは下るとき、尽きたとき、昇段試験のときには上手に書きますけれども、それを本当に自分で、そういうときに打つよう研究していかなければいけない。

次は目付。今言つたように、全部「ズー」と見る。自分の物打ちのところも、相手の目から足まで全部見入る。自動車を運転していて、バックミラーも前も皆見ているように、「ズー」と止まることのないように見る。これも大事でしょうね。

次は心法。これも心のあり方、これは気が止まることのないように、いつも動いているようにする。動搖すると止まってしまうから止まってしまう。「気」これは心からである。

呼吸の問題、これは近藤先生が物凄く研究しておられる。呼吸というものは胸式でなく腹式であるということを覚えておきなさい。腹式でなかつたら「ふー、ふー」これはいけない。腹です。

次は残心。これは心法のうちにに入るか知らないが、残心をとることを修錬すべきである。必死になつて修業をすると、そのうちに今いう理法の正しいものを求め、変なものを

市の剣道爱好者へのご指導ご尽力で多忙な毎日を過ごされ、この時期が先生の人生で一番華やかなご活躍の時であったと思います。

昭和四年八月以来、昭和四十二年三月まで、三十七年八ヶ月勤続された警察界を、満六十才をもつて勇退され、後進に道を譲られました。その後昭和四十三年五月九日付で日本剣道連盟より範士の称号を授与され、この上もない名誉を得られたのであります。

昭和四十三年九月二十八日、東別院内洗心道場が生まれ、かねがね社会奉仕の気持を深く持たれた先生は剣道を通じ青少年の人間形成に寄与すべく、ここで一日も欠かさず指導にあらされました。拝見するに一芸に秀出た方は非凡と申すべきか、内に情熱を秘め、深い信仰心に裏付けられて献身的な身構えで品位のある指導振りであります。

昭和四十八年十一月三日付にて、国より名誉ある叙勲、雙光旭日章勲五等を授けられました。

その後も剣道修業の姿勢にいささかのゆるぎなく、後輩の指導員等もそれを範として見習い、また青少年も安田政次郎先生の教えをよく守り練習に励んでいたのですが、昭和五

十一年八月二十八日午後六時ごろ、何時ものとおり中学生の指導にあたり五人目のA少年を指導中、急に身体の不調を訴えられ、面をつけ、竹刀をにぎりしめたままの姿で道場に俯され、永遠の剣の旅を続け歩まれることになりました。剣における先生の日頃の信念そのままに最高の大往生で、悔いのない人生であったと思われます。

洗心道場には、先生の遺影が掲げられて、そのお姿はここで指導された當時そのままに子供等の練習を見守っておられます。

八年間の長い間の青少年の指導により教えられた子等は今大きく育ち、その精神を帶してそれぞれ社会に貢献活動を続けております。

この文を草するにあたり、寄稿下さった深田正夫・田中弘・横井博彦の三先生に心より深謝します。



範士八段

加藤 万寿一

安田先生が剣道をはじめられたのは、先生が十八、九才、私がまだ小学校四、五年の頃だったと記憶しております。

高津さんは、故郷の養老から出て来られた先生は、海軍機関学校へ、終戦後佐世保に在住)が高尚館で稽古しておられ、名古屋市内の少年剣士の中でも指折で各種大会に活躍しております。

おられたのに刺激せられて「よし俺も剣道で身を立てよう」と決心して高尚館に入門したのだと聞いております。

さて、道場で基本から二段まで、更に、警察官になられるまでの先生を熱心に指導せられたのは、主として杉山清太郎先生(杉山文蔵の嚴父)、松浦新一郎先生(浅野八郎先生の実兄)でした。当時の安田先生は、晩年の先生とは全く想像もつかない程の瘦身で五十kgにも満たなく、徴兵検査も身長に比して体重不足で不合格と云う有様でした。

警察官になられてからの先生の剣道に対する熱意は、更に盛んで警察練習所—武徳殿—高尚館と一日三回は欠かさず練習さられた程の精進ぶりでした。比の様な先生の努力と性向の天稟によつてめきめき上達せらる、愛知の安田と云えれば全国的に名高い自転車店に勤められました。

丁度、高津さんの長男信彦君(旧愛知一中を四年で海軍機関学校へ、終戦後佐世保に在住)が高尚館で稽古しておられ、名古屋市内の少年剣士の中でも指折で各種大会に活躍しております。

京都へ一年間派遣されました。此の研修も終えられた先生は、愛知県警の師範となられました。

其後のご活躍ぶりについては、声があがつてきたので、愛知県警では、剣道研修のため依託学生として在ソ抑留のため、他の先生方の方へ京都へ一年間派遣されました。此での研修も終えられた先生は、愛知県警の師範となられました。

私は兵役に、更に戦後三十一年までの在京都へ一年間派遣されました。此での研修も終えられた先生は、愛知県警の師範となられました。

其後のご活躍ぶりについては、声があがつてきたので、愛知県警では、剣道研修のため依託学生として在ソ抑留のため、他の先生方の方へ京都へ一年間派遣されました。此での研修も終えられた先生は、愛知県警の師範となられました。

私は兵役に、更に戦後三十一年までの在京都へ一年間派遣されました。此での研修も終えられた先生は、愛知県警の師範となられました。

深田 正夫



第五回世界剣道大会

第五回世界剣道大会は、七月三十日、八月一日の二日間、ブラジルサンパウロ市にある州立イビラブエラ体育館で開催された。

大会には世界十六ヶ国、百三十人の選手が参加し、団体では日本が五連勝、個人は一位、二位、三位ともに日本選手が入賞し、剣道日本の



第五回世界剣道大会観察の旅

深田 正夫

このたび北海道のO先生が計画された第五回世界剣道大会視察応援旅行に誘われ参加することになり、併せてメキシコ、ブラジルの各地を訪ねる機会を得ました。

この旅行の紀行記を県剣連より依頼されましたが、何分にも不得手の上に馴れないことで、内容は筆者の勝手な主觀にもとづく印象を思いつくままに綴りました。

したがつて物足りない点、ご理解し難いところ等も多く、まことに拙い文容になりましたことをご容赦願い、最初におことわりしておきます。

いずれにしても体育施設が広大な

貫録を保持した。

詳細については全剣連公報・剣道新聞等にお任せすることとし、我々が観戦した大会の一端をお知らせします。

イビラブエラの体育館は、総合体育施設の一角にあり、大会場である体育館直接の入口(施設の裏門の玄関から、いくつかの施設を通り約一キロ程歩いた。

後で気がついたことであつたが、体育館へたどりつくるのに施設の正面玄関から、いくつかの施設を通り約一キロ程歩いた。

いずれにしても体育施設が広大な

ため大きな体育館が小さい建物のようにさえ感じた。

初日の個人戦は、日本選手が順当に勝ち進み、準決勝までに外国勢はすべて姿を消した。

もつとも昨年全日本選手権で優勝した警視庁の中田選手が、決勝トーナメント二回戦で米国の「カネシロ」選手に敗れる番狂わせもあり、日本選手全員が順当にとは言えない、剣道本家の苦しい一面もあつた。

当県剣連の誇りとして讃えたいものである。

二日目の団体戦は、十六ヶ国が参加し、予想通り日本は圧倒的に勝ち進み、五連勝を飾り、剣道本家の面目を誇示した。

聞くところによれば、日本選手団は出発途中、ロスアンゼルス空港での乗替え時にトラブルがあり、予定期間が相当長くずれたとのことで、差を含む)又到着日から大会当日まで僅か一日余程度の余裕しかもてなかつたこと等で、疲れもとれず、最悪のコンディションの中で大会にのみながら、この状態をよく克服し立派な成績を挙げたことは本当に立派であったと思う。

我々は、アメリカ、イギリスで行われた前二回の外国で開催された世界大会を観戦したが、本大会をこの

前二回の大会と比べてみると、正直に言つて総合的な面で何となく盛り上がりに欠けている感がしないでもなかつた。

メキシコ

メキシコでの主な観光は、高級保養地として有名なエルナバカの町、銀の町タスコ、メキシコ市の北郊にあるテオティワカン（神々の都）の古代遺跡・市内観光等であります。が、以下順にご紹介します。

△クエルナバカ
メキシコ市からアカブルコ（海岸の觀光保養地）へのハイウェーを約二〇〇キロ位のところにあり、年中春の気温を保ち、緑濃く、町には色々とりどりの花壇も多く落着いた美しい町で、古くから国の高官・富豪が邸宅を構え、今もなおその昔を偲ぶ古い由緒のある豪邸のいくつかが残っている。

この町のカテドラル（寺院）は古い建物で最近建物を修復するため院内の壁を剥いだところ、古い壁画が発見された。

教師十数人が秀吉の命によつて殺害

一九世紀頃より独立機運が高まり、一八二一年には遂にメキシコは独立をかちとつた。

に占領されたりしたが、二〇世紀に入りやつと完全独立と平和を取りました。

ような戦乱が続き、その動乱の中で、メキシコの中心都市として着実に発展し、独立後もメキシコ合衆国の首都として、又国際都市としても名実とも



メキシコ人は夜を長く楽しみ午後九時頃から午前三時頃まで遊び続ける。有名なマリアッチバンド（サラペ「肩掛け」とソンブレロ「帽子」の民族衣裳をまとったバンド）はマリアッチ広場附近に溢れる程集まっており、観光客にも気軽に唱ってくれるそうだ。

ナイトクラブでの民族舞踊、メキシコ民謡にひたりながらテキーラに酔うのも又旅の醍醐味である。ちなみにテキーラの一般的な飲み方をご披露しますと、まずレモンを

ブラジルでは、マナオス（アマゾン）、リオデジャネイロ、イグアスの滝、サン・パウロの四個所を観光したが、それぞれ特色と見どころがあるので以下ご紹介します。

△マナオス（アマゾン）

マナオス市はアマゾン河より一、五〇〇キロ位の内陸部にあり、アマゾン地域の政治・経済・文化の中心地である。

二十世紀の初め、ゴムの黄金時代

ブルジル

しゃぶつて、適量の塩とともにテキーラを飲み、更にトマトジュースを飲みます。このサイクルで飲み続けるのですが、馴れないとその味も解らないと思います。

テキーラはサボテンの液から造られ、絞った直ぐの液はドブロクのようないもので馴れないと飲めたものではないが、テキーラのブランデーは中々のものと言われている。

メキシコ料理の基本はどうもろこしだそうだ。主食のトルティヤはこのとつもろこしの粉を練つて薄くせんべい状に焼いたものであるが、これも馴れないとその味にはなじめないと思う。

水の色は茶褐色で、丁度コカコーラの色と思えばよい。流れも水面下は相當に早いと思うが河の表面は波も無く、裕々と流れている。

河を横切るように進んで河の中にある島に通じる狭い入江に入り、この島の入江にある水中レストランで昼食。ここでの食事は原住民の料理に手を加え、その料理を生かしたランチ風の料理だった。

味噌のようなたれ、白身の川魚と

には経済的に栄えたが、以後はみるべき産業も興らず、森林採取と生活物資の集散地として現状を維持している。

しかしながら最近では、アマゾン観光の基地と、アマゾン地域開発が推進され活況を呈しているそうである。

アマゾンの観光はホテルの前にある遊覧船乗場から始まった。

この船は一階と二階の客席を備え百一、三十人位は乗れる大きな遊覧船だったが、客は我々六人と添乗員、現地の日本人ガイドだけで後は船長の他、船員兼乗客サービスの船員三

この町は先に紹介したクエルナバカから更に二三〇キロ程走つた、海拔一八〇〇メートルの山の中にある古い町である。

その昔、銀の鉱脈をこの山に探し当てたスペイン人の山師（名は聞き忘れました）が、この地に銀の採掘抗夫、その製品加工職人を多く呼び集めて、莫大なお金を投入し銀鉱石の石畳、金銀の贅を尽した寺院を建てる等、大富豪となり、一大銀の町をつくり上げた。

現在この町はメキシコ国定都市として国から保護されており、町の中は古い寺院や鉱石で建てられた昔の建物、家並が続き、観光として見るべきところが多く残っている。

町の道路は坂道が多く、総べて昔の銀鉱石が敷き詰められ、広場も鉱石の石畳で残されており、建物はスペイン風に造られている。

現在この附近での銀鉱石は少ない

A black and white photograph of a traditional Andalusian hotel building with a tiled roof and balcony, featuring a fountain in the foreground where several people are gathered.

ロマンチックな雰囲気である。

された時のことを描がかれていることが明らかとなり現在そのままにしと保存されている。

事の善悪は別として、メキシコと日本との古い交流を思うと、時代を越えた今では何か日本とメキシコとの親しみすら感じ。

が、その加工技術は定着した加工職人の伝統を誇り世界的に有名で他の鉱山から銀鉱や銀が送られ、ここで加工される銀製品が多いと言われている。

△テオティワカン（神々の都）
市の北方約五〇キロのところにあり、ピラミッドで有名な古代遺跡である。

- 14 -

流れを大きくしたと思えばいいだろう。

晴天のために滝しぶきが大きな虹を作り、滝と断崖の間にいくつもの虹がかかり、眺めは壮絶な景観である。大自然の偉大さをつくづくと思われた。

曇つたり雨が降つてはこうした眺めは見られないとのことで我々は本当に恵まれたことを幸と思つた。

滝の見物を終り、公園を後にイグアスの町を通り抜け三国（ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン）の国境を見学、この国境線は川のT字（三叉川）をはさんだ場所で、三ヶ国がそれぞれ変わった色の石標塔を各対岸に立てる平凡な山村だった。

国境の通過は總べて船で、物々しい検閲もなく至極のんびりした感じである。イグワスの町はこの国境に続いた町で、アルゼンチン、パラグワイ人も相当数住み着いているようである。日常生活では格別何事もないようだが、事が起るとそれぞれの国ごとにかたまり、多少のトラブルもあるようだが町の治安は極めて平穏とのことである。この町も近くにあるパナラ川に建設中の世界でも最大級と言われる発

電所工事に従事する建設従事者の人口が増し、町に活気をおびており、町の郊外に通じるハイウェーの沿線には日増しに観光ホテルが建ち、観光客も除々に出入が多くなって、将来は大都市に発展するであろうとガ

イドの説明があつた。

町の郊外にある観光用の土産店でこの地の民芸品等を買って帰途についた。

△サンパウロ

サンパウロ市は海拔八〇〇メートルの高原地帯に位置し、気温は亜熱帶、十二月～二月の三ヶ月が雨期にあたり、暑い季節で、七月、八月が最も寒いと言われているが、暑くても30℃位で、寒くても5℃を下ることはないそうだ。



サンパウロはコーヒー産業から商工業へと急速に発展しつつあり、今や活気に溢れた産業都市として躍進している。

それでも観光客としては非常に楽空港のロビー、又街を歩くと多人種の人間に出会い街の動きに活気があるように感じた。

日本人街には日系人経営の商店が殆んどで、味噌、醤油、米、雑貨、菓子屋には餅菓子、せんべい、生菓子等日本人の食料品や雑誌も売れており、日本人には何一つ不自由を感じない。

サンパウロでの土産はやはり宝石である。さらに、外国勢の剣道に対する熱意は高く、日本の剣士もそれ以上の熱意と努力を傾注しなければ近い将来互格の試合を演じることになろうということも付け加えた。

最後に日本の代表としてご推薦と

第五回世界剣道大会に出場して

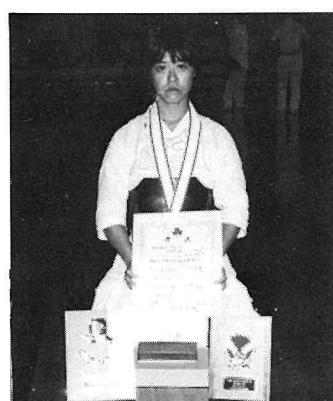
大同特殊鋼株式会社 安ヶ平 博

ていただけると思う。

私自身を振り返ってみても、ベス

ト16以降は大変な試合であった。特にベスト8で韓国の大将と対戦し延長6回、二三分もの長い戦いが大変であった。「一寸でも触わられたら負ける。ここで負けたら外国勢が入賞することになり大変になる。絶対負けられない。」という気持があり、勝負に出ることが出来ず、我慢、忍耐の試合であった。負けた選手は不運であつたが、おそらく同じような精神状態により半分の力も出しきれずに敗戦を強いられたのであらう。ただし、韓国選手の体力、動き、しぶとさは全く素晴らしいの一語につきる。

私は七月三十一日に行われた個人選手権に日本代表七人の中の一人として出場し、三位に入賞することができた。日本代表メンバーは警察官二名、教員三名、実業団二名が出場し、ベスト8で日本人同士で必ず戦おうの意気込みで試合に臨んだが、以外にも三名がベスト8までに敗退し、外国勢四名の進出を許してしまつた。このように日本の勝利は決して楽なものではなかつたことを分つ



インターハイ女子個人戦に入賞して

小坂井高校三年 柴田 幸喜恵

敵になるだろうというのが私の印象である。さらに、外国勢の剣道に対する熱意は高く、日本の剣士もそれ以上の熱意と努力を傾注しなければ近い将来互格の試合を演じることになろう」ということも付け加えた。最後に日本の代表としてご推薦と

良き経験をさせていただき本当にありがとうございました。また、県剣連の関係者の方々には物心両面に亘り格別の配慮を賜わり心から感謝の意を申し上げるとともになお一層のご指導を賜わりますようお願い申し上げます。

第五回世界剣道大会が、去る七月三十一日、八月一日の二日間ブラジル・サンパウロ市において開催され、団体・個人戦とも優勝することができた。

私は七月三十一日に行われた個人選手権に日本代表七人の中の一人として出場し、三位に入賞することが出来た。日本代表メンバーは警察官二名、教員三名、実業団二名が出場し、ベスト8で日本人同士で必ず戦おうの意気込みで試合に臨んだが、意外にも三名がベスト8までに敗退し、外国勢四名の進出を許してしまつた。このように日本の勝利は決して楽なものではなかつたことを分つ

いた。

世界大会に十六ヶ国参加がある。たが、ねばりと気迫の韓国、姿勢と技術が良いフランス、スピードのアメリカ、ブラジルという評価が出来るが、情報で得たよりもレベルの高いには驚いた。その中でも三年後の開催国であるフランスはスピードの開催国である。しかし、フランスはスピードをつければ韓国、ブラジルと並ぶ強

我が剣道を始めたのが小学校四年生の時ですから、かれこれ九年目を迎えたわけです。あの頃テレビを見、ターハイに出場できたのは去年の事。でも、結果は二回戦負けという惨めな成績でした。インターハイから帰り、残る最後のインターハイへ一年は、苦しく厳しいものでした。

それ以来ずっと憧れ続けてきたインターハイに出場できたのは去年の事。でも、結果は二回戦負けという惨めな成績でした。インターハイから帰り、残る最後のインターハイへ一年は、苦しく厳しいものでした。

我々は丁度寒い時の旅行をしたのだが、晴れてさえいれば寒さなど感じない程だった。

面積は日本の本州・四国を合わせた広さ、人口は七〇〇万人、現住民は人種が複雑で混血が多く、大別すると白人系が約半分、残りは黒人、インデオ、黄色人種となっているようだ。

治安状況は余り良くない。すり、ひつたりは昼夜を問わず多く、旅行者は特にねらわれている。

サンパウロはコーヒーパッケージから商業的に急速に発展しつつあり、今や活気に溢れた産業都市として躍進している。

サンパウロでの土産はやはり宝石である。ご承知のように日本人移住者も多く、立派な日本人街もあり、日系のホテルに泊まれば日本に居るので余り変わらない位で、総て日本語で話しができる。

日本人街には日系人経営の商店があり、味噌、醤油、米、雑貨、菓子屋には餅菓子、せんべい、生菓子等日本人の食料品や雑誌も売れており、日本人には何一つ不自由を感じない。



サンパウロでの土産はやはり宝石である。ご承知のように日本人移住者も多く、立派な日本人街もあり、日系のホテルに泊まれば日本に居るので余り変わらない位で、総て日本語で話しができる。

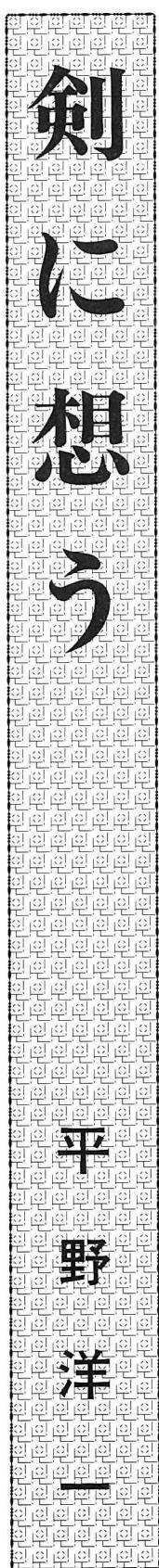
日本人街には日系人経営の商店があり、味噌、醤油、米、雑貨、菓子屋には餅菓子、せんべい、生菓子等日本人の食料品や雑誌も売れており、日本人には何一つ不自由を感じない。

とは私の喜びであり、自信となつて
いきました。その日ベスト8が決定
し、八月五日、まさかと思っていた
決勝戦に進出することができたので
す。

相手は今年五月に全日本女子選
手権で優勝した地元鹿児島の福之上
選手、大変な努力家だそうです。私
はそんな立派な選手と決勝を戦うこ
とができる幸運だと思いました。結果
は準優勝に終りましたが、私はこの
二年のインターハイを通して大切な
ことを学びました。人間、時には挫
折感を味わうことは、重要な意味を
持つということ。信念を持ってみた
すら努力すれば必ず報われるという
ことです。準優勝！ 私には、でき
過ぎなくらいです。でもこれは決し
て私一人の築いた成績ではありません。
部員、そして多くの試合で私を
鍛えてくれた相手校の選手の皆さん
があつてのことだと思います。この
感謝の気持を忘れず、一生剣道に精
進していくつもりです。

最後に、努力することの大切さを
身を持つて教えてくれた父、そして
この結果を一番喜んでくれた父に心
から『ありがとう』と言いたいと思
います。

部員、そして多くの試合で私を
鍛えてくれた相手校の選手の皆さん
があつてのことだと思います。この
感謝の気持を忘れず、一生剣道に精
進していくつもりです。



(一) この頃のわたし

七十才を過ぎ、今日も安全に稽古
できて有難い。明日も無事であります
すよう神や仏のご加護を心から祈り
ながら稽古している昨今です。

ときどき豊田自動車剣道部の強化
練習におじゃいますが、終了後四
、五〇分の道のりを岡崎まで送つて
載き恐縮しています。然し、何時ま
で皆さんの厚意を受けられるでしょ
うか。何時の日にかストップをかけ
られ、剣を捨てざるを得ない悲情を
味わうことでしょう。

こう思うと古希という年輪に無情
を感じます。然し、日々修練への思
いはつのばかりです。

(二) 剣道とは

九月中旬でした。榎原範士はこの
や根のみでなく枝葉の美しさも必要
である。それは正しい打突である。
正しい打突は、正しい構えからと思
う。

(三) 心に汗する

県スポーツ会館の控室で、ひとき

わご年輩は佐藤善記範士(八十四才)

です。現在、かく獣として指導に當
たられていますが、数年前のこと、

『平野君、稽古を願いましょう。』と
お話を非常に恐縮しました。と言
うことは、私は今までに、先生に

稽古をつけて載いたことはありませ
んでした。その言葉に今まで礼を失
していきなりことを心からお詫びして、
ご指導に預りました。

さて、切り返し中段に構え気合を続
いた途端、先生の眼光炯炯とした
体に汗し、心に汗して修業を続
けてきました。然し心の修業が不足してい
る。体に汗し、心に汗して修業を続



屋で稽古するようになつてから変わ
ってきた。然し心の修業が不足してい
る。体に汗し、心に汗して修業を続

る。』とのことです。

また静岡の羽賀範士

士からご指導を戴いた時『これは極意で
すよ。これは双方相

対する一方が正面に
切りさげる。同時に

片方が右足軸に直角
に左廻りする。切り
さげた刀は相手の鼻
の前すれすれに落ち

同朋高インターハイ三年連続出場 及び東海総体優勝

同朋高校剣道部監督 辻 康博

五月三十日に愛知県総体剣道大会
が千種高校で行なわれました。同朋
高校の女子は二年連続優勝、今年で
三年連続優勝なるか！ 試合は、予
選、決勝トーナメント一、二回戦は

順当に勝ち進んだ。準決勝からは、
選手達にブレッシャーがかかり、接

戦の末二対二の一本、本数勝ちで決
勝に勝ち進みました。いよいよ決勝
です。先峰の日比野が二本勝、次峰

の南が一本負け、あとの三人は引き
分けという結果で苦戦の末に一本、
本数勝ちで、ついに三年連続優勝す
ることができました。

厳しい練習と努力の成果によつて
優勝できました。生徒達は一人一人
涙をうかべて喜び合っていました。
それを見ていると監督としては、感

激の嬉しさがこみあげてきて、胃の
痛みも忘れてしました。



「剣道日本」の九月号に載つていま
すので省略致します。)

さて、いよいよ全国総体体育大会
です。今年は、宮崎で合宿し鹿児島

が勝ったものの、先峰、中堅、副

将は延長戦で一本負けという惜しい
負けでした。

鹿児島には、選手、監督以外に父
母応援団十三人、応援部員十人等を

含め二十七人の大部隊で参加しまし
た。これも、百名のOB会、在校生

父母、同朋高校の教職員の支援があ
るからこそと感謝しています。

この全国総体での雪辱を来年の愛

知県総体に向けての教訓として、更
に努力し飛躍していく決心を固めて
おります。今後一層！ 剣道連盟の方
々にもご指導とご鞭撻をお願い致し
ます。

最後になりましたが選手を紹介し
ます。先峰はファイトの固まり「日
比野」、次峰は動きの早い「南」、中
堅はテクニシャンの「三谷」、副将は
リーダー格の「小林」、大将は努力家
で上段の「小山」というチームワー
クのとれたメンバーです。

試合の結果は、和歌山県代表の耐久
高校にさい先よく5対0で勝ち、順
調に行つた。しかし、次は、千葉県
代表の安房南高校です。安房南は、
昨年準優勝している強豪校です。選
手達は「無心」と「気迫」で戦つた
八位に入ることができたので今年は
上位入賞をねらい頑張つてきました。

試合の結果は、和歌山県代表の耐久

高校にさい先よく5対0で勝ち、順

調に行つた。しかし、次は、千葉県

代表の安房南高校です。安房南は、
昨年準優勝している強豪校です。選

手達は「無心」と「気迫」で戦つた
八位に入ることができたので今年は
上位入賞をねらい頑張つてきました。

試合の結果は、和歌山県代表の耐久

高校にさい先よく5対0で勝ち、順

調に行つた。しかし、次は、千葉県

代表の安房南高校です。安房南は、
昨年準優勝している強豪校です。選

手達は「無心」と「気迫」で戦つた
八位に入ることができたので今年は
上位入賞をねらい頑張つてきました。

試合の結果は、和歌山県代表の耐久

高校にさい先よく5対0で勝ち、順

調に行つた。しかし、次は、千葉県

代表の安房南高校です。安房南は、
昨年準優勝している強豪校です。選

手達は「無心」と「気迫」で戦つた
八位に入ることができたので今年は
上位入賞をねらい頑張つてきました。

試合の結果は、和歌山県代表の耐久

高校にさい先よく5対0で勝ち、順

調に行つた。しかし、次は、千葉県

代表の安房南高校です。安房南は、
昨年準優勝している強豪校です。選

手達は「無心」と「気迫」で戦つた
八位に入ることができたので今年は
上位入賞をねらい頑張つてきました。

試合の結果は、和歌山県代表の耐久

高校にさい先よく5対0で勝ち、順

調に行つた。しかし、次は、千葉県

代表の安房南高校です。安房南は、
昨年準優勝している強豪校です。選

手達は「無心」と「気迫」で戦つた
八位に入ることができたので今年は
上位入賞をねらい頑張つてきました。

変化することが出来るでしょう。この場合、勝敗は何れになるかわから
ない。

激して以来、執念を燃やして稽古にはげんでおります。

の集りでありますので、稽古をつけて貰いました。

雛の誕生の時、雛が殻の中から嘴でツツクと親鳥がそこを嘴でコツンとやる途端に殻を破つてピヨピヨと出てくることを云います。私は長い間弓筋をこころにござ苦心してきました

一筋の上にぐるまで我慢し その瞬間直角に左に転ずれば相手の刀はそのまま下に落ちる。切る側が容易に変化できない。要するに空を切らせて相手を切ると解釈しています。

我慢とは、毛髪一筋まで待つことであり、また、腰や足さばきの軽妙は正しい姿勢から求められることであります。

こぶし、目付け、呼吸その他沢山の極意のなかで、前のふたつすら知識を得た程度で、容易にできない事に躋をかんでいます。

(三)

恩師永峰晃範士は、京都武道専門学校出身で一昨年八十八才で逝かれました。亡くなつてから、生前のあの素晴らしい面打ちが瞼に浮んでなりません。よし、あの面をものにしようと発心いたしました。

たまたま剣道雑誌で、内藤高治範士の語録に『剣道は面打ちにはじまり面打ちに終る。』とあり、これこそ泉下の永峰先生のお引き合せと感

道場連盟だより
太平洋上で剣道!!



愛知県剣道々場連盟（会長森田茂氏）主催の夏季少年剣道合宿遠征訓練は八月十六日から四泊五日で太平洋フェリーを利用し、太平洋上で剣道の練習をしながら仙台、山形両市との少年剣士と交友を深めた。

この武者修業は、近藤利雄範士を団長とする小中学生二百五十一名で出発に先立ち港区の港湾会館で結団式を行ない太平洋フェリー「いしかり」に乗船。合宿訓練と遠征修業を通じ、相互理解と親睦を深めつつ躾教育をし健全な青少年育成の第一歩をふみ出した。

けい古で親睦を深める。その夜は、天童温泉に泊まり、全員で会食のあと、剣道少年団体験発表の実習と演芸大会で旅の疲れをいやした。

十九日十時、仙台港から「いしか

ぼくは、この仙台、山形行きの武者修業の前日、不安と期待に、かきたてられながら眠りました。よく日フェリーにのって一心寺の子と同じ部屋に宿りました。最初ぼくは、コチコチになっていたけど、一心寺の子から話しかけてきてくれてリラックスできました。特に森下君と仲よくなりました。最初のイメージとだいぶちがってずいぶんんなつっこい子たちと思いました。

本題の武者修業の感想は、れつ等感を感じました。ぼくは、光徳館では、まあまあの方なのだけど、仙

台レジャーセンター、山形の小学校の体育館などのみんなのけい古を見ていると、ぼくより年下でも何倍も強そうな子たちばかりでした。特に帰りのフェリーのかんばんでやつた試合古い古でとてもつぶつました。これは今まで以上に練習しなくてはならないなあ！と思いました。そこでぼくはさかき先生のいわれた素振りと一心寺の鈴木君が作文に書いていた砂を入れたビールびんをふるけい古をすることにしました。

演芸大会の時、色々な出し物がありましたが、特におもしろかったのが

武者修業についての感想

光德節 中二 菊山 犯彥



り」に乗船。午後は雄大な太平洋をバックにかんばん上で学年別の個人大会を実施。まつ青な空と海に、少年剣士たちのかけ声がひびきわたった。太平洋上の剣道!! この日は、少年剣士にとって一生涯忘ることのできない思い出の日になると思想します。合宿期間中は、プリッジ見学、札状書き、感想文書き、映画観賞、共同学習、演芸大会など楽しい経験をした。二十日、名古屋港フエリー

先生の求道の心をかりたてたのは、内藤範士のご人格の然らしむることでしょうが、この師弟の交りに、私は大きな感銘を受けました。京都大會で、内藤範士の記念碑の前で、しばし瞑想にふける老剣士の姿が、今もなおさまざまと瞼に浮んできます。

(六) 碎啄同機

昭和四十三年夏のこと、静岡県剣連川村事務局長が、玉利範士をお招きし、ご指導を戴きました。少人数

(六)

士の語録に『剣道は面打ちにはじまり面打ちに終る。』とあり、これこそ泉下の永峰先生のお引き合せと感

先生の求道の心をかりたてたのは、内藤範士のご人格の然らしむることでしょうが、この師弟の交りに、私は大きな感銘を受けました。京都大會で、内藤範士の記念碑の前で、しばし瞑想にふける老剣士の姿が、今もなおさまざまと瞼に浮んできます。

(六) 碎啄同機

昭和四十三年夏のこと、静岡県剣連川村事務局長が、玉利範士をお招きし、ご指導を戴きました。少人数

これこそ永峰先生の教え、刃筋をたてる剣である。これに気付いた時は、うれしくて膝をたたいて喜びました。今日、あの時のあの喜びを再び味わいたくても恐らく夢でしょう。手の舞い足の踏む処を知らずの心境を経験しました。

空手の剣とは、左右の拳、剣尖、それぞれが空であり、竹刀の延長線が相手の顔面正中線にある。このとき刃筋がたつと理解しました。

碎啄同機と云う言葉がありますが、

彼岸の遠いことに思いを致しております。

筆者は剣道教士七段

（元静岡県剣連常任理事兼財務委員
磐田剣連理事長
現岡崎剣道連相談役
中部電力株式会社剣道師範）



11

て い る 始 末 で す。

- 22 -

は一心寺の前田軍団のアタックNo.1や、暴走族や江川のまねなどがおもしろかつたけど、祝先生のアシスタントボーイの子がほかの班が山族の歌を歌つている時、マイクを取り上げとつぜん「雨」と歌い出したので

す。みんな大笑いして、「雨」と後につづきました。これには祝先生も大笑いして転がつていました。

最後になりましたが、ぼくにとつてこの合宿は楽しくて苦しく、ためになるものでした。

仙台洋上合宿に参加して

小牧一色剣修会 六年 平林 浩史

八月十六日が楽しみだった。

しかし、船で気持ちが悪くなつてしまつた。これは、先生方の言う事を聞かずに夜、おそらくまで起きていたからだ。翌日の早朝練習でまた、気持ちが悪くなつた。

ぼくたちの先生は、東先生というとてももりっぽな先生です。だけどこの合宿に参加して下さつた近藤團長先生を始めとし、榎原先生、竹内先生、内藤先生、玉置先生、どの先生もりっぽな先生です。

ぼくは特に、近藤團長、榎原先生の言われた言葉をりつぱだとしました。

海上合宿訓練に参加して

小牧一色剣修会 中一 中島 拓司

ぼくは、この海上合宿訓練に参加してとてもよかったです。それは、くつをそろえたり、自分の荷物をつねに整理できたからです。時

時スリッパをならべ忘れたりしまつたが、自分ではしつかりできました。

家では、机の上がちらかっていたり、ベットのふとんがぐぢやぐぢやになつていました。だけどこんどからは、近藤先生の教えを守つていきました。それにきちんと荷物やくつなどを整理していると、見た目にもきれいだし、5分前にも集まれるし、忘れものなどもしないからです。これらのことはとても大切なので一生つづけていきたいと思ひます。

ほかには、仙台や山形の人達といふことができたことです。いろいろなわざや間あいなど、とてもよくてみんな学ぶことばかりでした。

近藤先生は、「仙台の人や山形の人は、思いきりがよい」といったことは、そつだなあと思いました。け



は、友達にならう。そして最後に、場にならう。こうおっしゃいました。ぼくは、剣道は先生から学び、練習でおぼえるものだと考えていたので、その分、余計にりつぱだと思ったのです。

近藤團長のおっしゃった言葉の中では、仙台、山形の少年剣士の、ごうなる心をみならえということです。他にもいろいろとお話をして下さつたけど、ぼくがあまり聞いていなかつたので少しあしかおぼえていません。

仙台のえんせい試合では、試合に出れなかつたけど玉置先生が試合に出れなくとも、よく見ていろよ。とおっしゃっていた。だからよく見ていた。仙台の少年剣士のみんなが試合に出ていなくてもいつしようくんめいになつて応えんしているのを見



やつているんです。やつぱりなにもしないで強くはなれない。天才の人はみんな人の倍努力しているんだなとつくづく思いました。ぼくは、なんにも努力しないので強くならないはずだなと思いました。これから、日本原くんなどのように努力していく

東先生はよくこんな事を口にしていました。「おまえらは、試合で2割の力しか出していない。5割だ。5割の力を出せばぜつたに負けない」と思いました。

この言葉を聞いてから試合では、少しでも練習の通りにやるよう、心がけています。だけど今日、八月十九日の試合、一回戦で負けてしまつた。しかし、別にくやしさはなかった。むしろ、うれしかつた。なぜ打ち、思い切つてうつことが出来ない……。試合などでもよく下がつて出でて応えんすれば、みんなもいつしょになつて応えんしたかも知れないと、こういう事こそ先生の話をよく聞き、試合で出さなければいけない。

榎原先生の言つた「剣道などは、ものだ」ということです。榎原先生は、日本一にもなつたし、八段もうかつたのは、毎日かかさず、すぶりをしたからだといつていました。そ



いんだんてはじめは思つていまつた。その人たちは、もともと強い人なんですが、作文を書いてやつぱり強い人は努力家だなと思います。王選手なんかは、はじめは打げきふちようで毎日毎日夜すぶりをしていたそう

い。」この言葉を聞いてから試合では、少しだも練習の通りにやるよう、心がけています。ただし、別にくやしさはなかった。むしろ、うれしかつた。なぜ日本でも世界でもはじめてだ。歴史に残る事だ。とおっしゃいました。ぼくは、この事を名よだと思い、人に自慢してやりたい気持ちです。部屋にもどりこの作文を書きながらこんな事を思いました。

「みんなどんな事を書いているのかな。ぼくと同じかな。もし、いい事を書いているのならおしえてほしいなあ。」

だけどやつぱり聞いていなかつたのが悪いので教えてくれないと思つていたら、友達が教えてくれた。剣道は、はきものをそろえる事から始まる。この事を聞いてさつそくはきものをそろえました。

こんなにすばらしい言葉を言う先生がたをつくづくとりつぱだと思い、また自分も先生方のようになりたいと思いました。

武者修業に参加して

一心寺剣光会 中三 鈴木 健介

この五日間、ぼくは大失敗をしてしまった。それは二日め、足をけがしたことです。このことで、先生や班の人たち、つきそいの人たちに大変迷惑をかけてしまいました。どうもすみませんでした。四回のけい古のうち二回しかできなかつたので、とても残念でした。では五日間の日程の順をおつて感想を書いていきたいと思います。

まず、十六日、雨のぱらぱらふる中、一心寺を出発した。みんな何が起ころかむねをふくらませ、少し心配そうな顔で出た。港湾会館で結団式をしたとき、はじめて一緒に行く友だちの顔を見た。みんな「やるぞ!!」という顔をしていた。フェリーふとうに着き、しばらく待たあと船に乗つた。期待していたより大きかつたが、部屋はたいしたことなかつたのでがつくりした。仙台につくまで映画やけい古などのぎっしりつまつた日程をこなした。船は巨船とはいえ、ゆれるので少し気分が悪くなつた。夜中、目が覚めるとかみな

りがなつていた。家にいるときのかなりとちがつて底から響いてくる感じがした。夜はカーテンをあけてみのぞいてみた。なにも見えないまま暗な海に「ピカッ!!」と光ると、なんともいえない不気味さを感じた。無事船をおり、すぐけい古をした。このときだた。足をけがしたのは、自分の不注意だつたかもしれない。本当にすまないこととしたと思つた。本当にすまないこととしたと思つた。しかし、この旅でとてもうれしいことがありました。それは、ぼくの書いた剣道の体験発表が愛知県で二位に選ばれたことです。三日目にあつた演げい大会でそれをみんなの前で発表しました。賞品もいただきました。しかしこの旅でとてもうれしいことがありました。それは、ぼくの書いた剣道の体験発表が愛知県で二位に選ばれたことです。三日目にあつた演げい大会でそれをみんなの前で発表しました。賞品もいただきました。それよりもつとれしかつたことは、発表のときに態度が立派だつたといつて、近藤利雄先生にてぬぐいをいただいたことです。このてぬぐいは

4泊5日でフェリーに乗つて、仙台、山形と合宿へ行きました。そのとき学んだことを書きます。その日の夕方船を降りて、今度は仙台のレジャーセンターで練習をしました。いろいろな先生とやりました。いろいろな先生とやりました。愛知の先生とはちょっと違つていました。愛知の先生はあまり、いなさないけれど、仙台の先生は一木本打たしてくれません。だから、大変つかれましたが内容もよかったです。東小学校で行われました。今度は先生だけがもとに立つてくださつたのでも打たしてくれません。だから、大変つかれましたが内容もよかったです。近藤利雄先生にてぬぐいをいただいたことです。このてぬぐいは

4泊5日でフェリーに乗つて、仙台、山形と合宿へ行きました。そのとき学んだことを書きます。その日の夜の演芸大会のとき、近藤利雄先生が言つた言葉にやつと気がつきました。今まで数えきれないほど言つていましたがやつとわかりました。『くつをきちんとならべなさい』と言つっていました。この言葉は、剣道修業の一一番最初に大切なことだと思いました。こういうことを言つた言葉も剣道修業の一つだと思いました。『素振りを一日百五十回くらいはやれ。』『剣道日誌を毎日つけよ。』の二つを言わされました。素振りは毎日やつていたけれど、剣道日誌もつけられたらつけていきたいと思います。近藤先生、榎原先生の言つた言葉を頭の中にいれて、これからしっかりとやつていきたいと思います。

海洋合宿で学んだこと

齊年寺道場 中二 岩島 繁一

一生の思い出として、ずっと部屋にかざつておこうと思います。本当にこの五日間みなさん迷わ

くをかけてすみませんでした。けい古ができなかつたことが大変残念でした。

剣道から学んだもの

ナオリ剣道教室 中一 日原 基裕



道場には「道場訓」があります。

僕にも剣道から学びとつた「自己訓」があります。これは何をする時でも必ず一度は口に出して言っています。

僕が剣道を習い始めたのは、小学校一年の時でした。体も大きく、じつとしているのがきらいだったので竹刀を持って体を動かせる事は、うれしくてたまりませんでした。だから低学年の頃はがむしゃらな剣道で試合も体力で勝つていたようになります。

五年生の終り頃、先生に、「君のファイトと根性は、だれにも負けないけれども、何か足りないものがある」と思っていたが、それは左足の踏み出しがな

み切りが弱いのだ。これからは左足を強くする事が大切だ」と注意されました。「欠点は、自分でトレーニングして直しなさい」と、トレーニングの方法を教えてもらいました。左足が弱いという先生の教えにびっくりした僕は、早速その日から毎日左足を強くするためのトレーニングを始めました。左足でケンケン飛びをするのです。初めは駐車場にあら一台の車をまわりだんだん台数をふやしていきました。繩飛びも左足で二百回ずつ飛びました。そして自分で考え出し、階段を登る時、降りした。又、左手左足を使って垂直飛びをする時、左足を使う事にしました。何段かを一気に飛び上がつたりもしました。左足が弱いだつたので、僕が剣道を習い始めたのは、小学

校一年の時でした。体も大きく、じつとしているのがきらいだったので竹刀を持って体を動かせる事は、うれしくてたまりませんでした。だから低学年の頃はがむしゃらな剣道で試合も体力で勝つていたようになります。

道場には「道場訓」があります。

僕にも剣道から学びとつた「自己訓」があります。これは何をする時でも必ず一度は口に出して言っています。

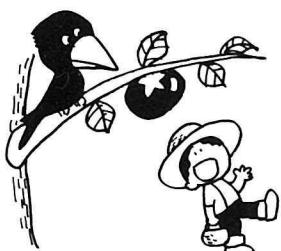
僕が剣道を習い始めたのは、小

学校一年の時でした。体も大きく、じつとしているのがきらいだったので竹刀を持って体を動かせる事は、う

れしくてたまりませんでした。だから低学年の頃はがむしゃらな剣道で試合も体力で勝つていたようになります。

五年生の終り頃、先生に、「君の

ファイトと根性は、だれにも負けないけれども、何か足りないものがある」と思っていたが、それは左足の踏み出しがな



国後は道場を建築してハワイの青少年を指導したいと念願し、剣道防具も新調し、毎週火・水・木・金と週四回、午後七時から一時間みつかり修業にはげんでいる。彼の稽古の頃

母子さに接することに、我々日本人も彼の精進振りを見習うべきであると深く考えさせられることもある此頃である。

教職員剣道大会報告

監督 小谷好助

女子の部

八月十日鳥取県立鳥取西高等学校と県営鳥取武道館の二会場で開催された。

本県の選手は

団体戦

高山潤一（滝 中）
白石裕章（東港中）
堀山健治（中京大）
渡辺 香（中部工大）
渡辺一民（津島北高）

原 京子（港南中）
で出場した。団体戦一回戦は宮崎県との対戦、先峰は双方決め手がなく引き分けたが、次峰白石が激しい動きで先勝し、中堅、副将、大将と連勝、四対〇で勝負を決めた。二回戦は、島根県と対戦、先峰双方激しい打合いで高山メンを先取したがわざかにせり負け、次峰もメンを先取するもコテ・メンと連取され二対〇となる。底力で中堅堀山、副将渡辺が連勝し大将戦にもつれ込んだ。大将の渡辺、気力のこもった試合であつたが時間切れ寸前小手を決められ涙の涙をのむ。

個人戦
小学校の部
原田 努（乙川東小）
中学校の部
水田 渉（青海中）
高山潤一（滝 中）
高・大・教の部
林 邦夫（中京大）
学校の部の水田昨年の覇者、二連勝

を目標に頑張ったが決勝戦で下諸（島藩三十二万の城下町として古くから榮え、市街地には、雄大な砂丘、伝説の湖山池畔には吉岡温泉、因幡の白うさぎで有名な白兎神社がある町

今大会が行われた鳥取市は、池田結勝進出は称賛したい。

藩三十二万の城下町として古くから榮え、市街地には、雄大な砂丘、伝説の湖山池畔には吉岡温泉、因幡の白うさぎで有名な白兎神社がある町

である。

今大会が行われた鳥取市は、池田結勝進出は称賛したい。

さて、試合は先ず個人戦を皮切りにて行われた。中・高大・女子の四部門に分かれ、小・女子の部は武道館と両会場の関係で応援に走り回る状態であった。結果は前記の通りであるが、各選手ベストをつくされたことを報告します。

編集後記

じます、前号の様な経過により、昭和二十七年十一月七日発足と統一致しますので何とぞご理解いただきたいと存じます。色々と貴重なご意見賜りましたことに対し、誌上を借り厚く御礼申し上げます。

広報委員長

坂田平七郎

事務局長

細田 鍾郎

高山潤一（滝 中）
白石裕章（東港中）
堀山健治（中京大）
渡辺 香（中部工大）
渡辺一民（津島北高）

広報「観の眼」第六号をお届けできることになりました。ご覧になつていただくとわかりますようになります。会員相互の意志の疎通、あるいは剣道修業の糧として活用していきたいと思います。

前号で、本県剣道連盟結成に至る経緯を掲載しましたところ、その後岡崎剣連事務局長・岡田保信氏を通じ、杉浦全氏から保管資料を添えて発足日につきご懇篤なご教示をいただきました。まだこの件につきましては多少の疑惑やら別の解釈をお持ちの方もおろうかと存

広報「観の眼」第六号

昭和五十七年十一月

愛知県剣道連盟

〒453 名古屋市中村区鳥居通り

二ノ四〇

電話 内藤ビル二階

八〇五二四八一一〇〇九三